

仮想大学図書館 所蔵図書目録

仮想（バーチャル）大学で使ったテキスト・参考文献をリストアップしました。教科書『私もできる西洋史研究』で引用した本の他、仮想大学HPに登場する本も挙げています。

辞典・事典

『世界大百科事典（改訂新版）』平凡社、全33巻、2007年

『日本大百科全書（ニッポニカ）』第2版、小学館、全26巻、1994～98年

オンラインで使えるようになりました。無料オンライン百科事典『Yahoo!百科事典』
(<http://100.yahoo.co.jp/>)

『ブリタニカ国際大百科事典』全28巻、ティビーエス・ブリタニカ、1988年

「小項目版2013」は、DVD-ROMないしダウンロードによりPCで使えます。

『世界歴史大事典』芳賀登他編、教育出版センター、全22巻、1991～92年

『歴史学事典』尾形勇他編、弘文堂、全16巻、1994～2009年

『新編 西洋史辞典（改訂増補）』京大西洋史辞典編纂会編、東京創元新社、1993年

西洋史に関する基本的な辞典です。

『角川世界史辞典』西川正雄他編、角川書店、2001年

「買って損はないと思います。小さいけど便利な辞典です」（教科書『私もできる西洋史研究』41ページ）

『キリスト教人名辞典』日本基督教団出版局、1986年

ダイアナ・パウダー編、小田謙爾他訳『古代ローマ人名事典』、原書房、1994年

姉妹版の『古代ギリシア人名事典』もあります。どちらも詳しく便利。

『類語大辞典』柴田武・山田進編、講談社、2002年

類似の辞典は各種あります。PCで使えるデジタル類語辞典も便利です。

『世界史大年表』青山吉信他編、山川出版社、1992年

文献案内・研究入門

『史学雑誌』巻末文献目録（毎月出ています。1, 5, 9月号は西洋史文献目録）

『法制史文献目録』（雑誌『法制史研究』に毎年掲載。古い部分は書物にもなっている）

American Historical Review 卷末文献目録

Byzantinische Zeitschrift 卷末文献目録

さまざまな雑誌が文献目録を掲載しています。上記はほんの一例。専門分野の学術雑誌を見てください。

『史学雑誌総目録 創刊号～第100編』史学会、山川出版社、1991年

『日本歴史学界の回顧と展望』全25巻、山川出版社、1987～88年

『史学雑誌』5月号の「回顧と展望」をまとめたもので、20～25巻が西洋史です。

『歴史学研究総目録・索引 1933No.1～2006No.822』歴史学研究会、2006年

『西洋史学総目録1～150号』西洋史学総目録刊行会編、1989年

『世界史・西洋史に関する37年間の雑誌文献目録』日外アソシエーツ、1988年

『日本における歴史学の発達と現状』国際歴史学会議日本国内委員会編、全7巻、1959～89年

松本宣郎他『文献解説 ヨーロッパの成立と発展』南窓社、2007年

前沢伸行他『文献解説 ヨーロッパの成立』（南窓社、1981年）の増補版です。

伊藤貞夫他『西洋古代史研究入門』東京大学出版会、1997年

佐藤彰一他『西洋中世史研究入門（増補改訂版）』、名古屋大学出版会、2005年

望田幸男他『西洋近現代史研究入門（第3版）』、名古屋大学出版会、2006年

『アメリカ史研究入門』有賀夏紀他編、山川出版社、2009年

『イギリス史研究入門』近藤和彦編、山川出版社、2010年

『ドイツ史研究入門』西川正雄編、東京大学出版会、1984年

『フランス史研究入門』佐藤彰一・中野隆生編、山川出版社、2011年

以上の研究入門の本はいずれも詳しい参考文献リストを付けています。

全集・叢書

『岩波講座世界歴史』全28巻+別巻1、岩波書店、1997～2000年

旧版全31巻（1969～71年）にも重要な基本的論文が多数収録されています。

『世界歴史大系』全24巻、山川出版社、1990～2008年

『新版 世界各国史』全28巻、山川出版社、1998～2009年

『世界現代史』全37巻、山川出版社、1976年～

『世界の歴史』中央公論新社、河出書房新社、講談社など各社から刊行されています。

『世界古典文学全集』全50巻、筑摩書房、1964～2004年

歴史書も文学に含めているので、ヘロドトスやタキトゥスははじめ、重要な歴史作品も収録されています。文庫化されたものも多い。

『世界の名著』全81巻、中央公論社、1966～76年（中公バックス、中公文庫も）

歴史の古典的名著も多数収録されています。解説も詳しい。

『聖書 新共同訳』日本聖書協会、1987年（各種の版あり）

一番読まれている訳ですが、歴史学として扱うなら田川建三『新約聖書：訳と註』（作品社、2007年～）を勧めます。

勉強の仕方・西洋史研究法

『人文学への接近法——西洋史を学ぶ』服部良久他編、京都大学学術出版会、2010年

戸田山和久『論文の教室——レポートから卒論まで（新版）』NHK出版、2012年（日本放送出版協会、2002年）

澤田昭夫『論文の書き方』講談社、1977年

西洋史の基礎知識

服部良久他『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』、ミネルヴァ書房、2006年

小山哲他『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』、ミネルヴァ書房、2011年

他にも読みやすい入門書が多数あります。

授業のテキスト・参考文献

初年次セミナー（1年前期）

佐竹明『使徒パウロ——伝道にかけた生涯（新版）』新教出版社、2008年（日本放送出版協会、1981年）

木下順治『パウロ 回心の伝道者』筑摩書房、1986年

弓削達『ローマ帝国とキリスト教』河出書房新社、1989年（1968年）

M. ヘンゲル『使徒行伝と原始キリスト教史』新免貢訳、教文館、1994年

E. トロクメ『使徒行伝と歴史』田川建三訳、新教出版社、1997年（1969年）

E. トロクメ『聖パウロ』加藤隆訳、白水社、2004年

本多勝一『日本語の作文技術（新装版）』講談社、2005年（朝日新聞社、1976年）

西洋史の見方（1年後期）

桜井万里子・本村凌二『ギリシアとローマ』中央公論新社、2010年（1997年）

ホメロス『イリアス』2巻、松平千秋訳、岩波文庫、1992年

シェイクスピア『アントニーとクレオパトラ』福田恒存訳、新潮社、1972年。岩波文庫も。

『プルタルコス英雄伝』3巻、村川堅太郎訳、筑摩書房、1996年（筑摩書房、1987年）

浅香正『クレオパトラとその時代——ローマ共和政の崩壊』創元社、1974年

西洋史基礎講読（2年前期）——読書会用推薦図書（※）を含む

タキトゥス『ゲルマニア（改訳）』泉井久之助訳、岩波文庫、1979年

タキトゥス『ゲルマニア、アグリコラ』國原吉之助訳、筑摩書房、1996年

レーニン『哲学ノート（改訳）』上下2巻、松村一人訳、岩波書店、1975年

『レーニン全集』第38巻、マルクス=レーニン主義研究所訳、大月書店、1961年

※アリストテレス『アテナイ人の国制』村川堅太郎訳、岩波文庫、1980年

※『使徒のはたらき』塚本虎二訳、岩波文庫、1977年

読書会には文庫が便利ですが、本格的に読むなら、田川建三訳著『新約聖書 訳と註2下 使徒行伝』（作品社、2011年）を勧めます。

※エインハルドゥス、ノトケロス『カロルス大帝伝』国原吉之助訳、筑摩書房、1988年

※ラス・カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』岩波文庫、1976年

※桜井万里子『古代ギリシアの女たち——アテナイの現実と夢』中公文庫、2010年（中公新書1992年）

※桜井万里子・橋場弦編『古代オリンピック』岩波新書、2004年

※南川高志『ローマ五賢帝——「輝ける世紀」の虚像と実像』講談社現代新書、1998年

※増田四郎『西洋中世世界の成立』講談社学術文庫、1996年（岩波書店、1950年）

西洋史通論（2年後期）

八塚春児『十字軍という聖戦——キリスト教世界の解放のための戦い』日本放送出版協会、2008年

H. サイドボトム『ギリシャ・ローマの戦争』吉村忠典・澤田典子訳、岩波書店、2006年

G. ヴィラルドゥアン『コンスタンチノーブル征服記——第4回十字軍』伊藤敏樹訳、講談社、2003年（筑摩書房、1988年）

C. モリソン『十字軍の研究』橋口倫介訳、白水社、1971年

A. マアルーフ『アラブが見た十字軍』 牟田口義郎・新川雅子訳、筑摩書房、2001年（リブポート、1986年）

G. タート『十字軍』 南条郁子・松田廸子訳、創元社、1993年

John Skylitzes, *A Synopsis of Byzantine History 811-1057*, tr. J. Wortley, Cambridge, 2010.

Anna Komnene, *The Alexiad*, tr. E. R. A. Sewter and P. Francopan, London, 2009.

O City of Byzantium, Annals of Nicetas Choniates, tr. H. J. Magoulias, Detroit, 1984.

西洋史演習（3年前期）

歴史学研究会『世界史史料』 岩波書店、全12巻、2006年～

『西洋古代史料集（第2版）』 古山正人他編、東京大学出版会、2002年

『西洋中世史料集』 ヨーロッパ中世史研究会編、東京大学出版会、2000年

田中利光『ラテン語初歩（改訂版）』 岩波書店、2002年

授業のテキストではなく、独学の人には小林標『独習者のための楽しく学ぶラテン語』（大学書林、1992年）がお勧め。

ギリシア語は田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門（新装版）』 岩波書店、2012年

井上浩一『ビザンツ 文明の継承と変容』 京都大学学術出版会、2009年

M. Maas, *Reading in Late Antiquity: A Sourcebook*, 2nd ed., London and New York, 2010.

C. Pharr, *The Theodosian Code*, London, 1952.

西洋史講読（3年後期）

H. W. Haussig, *Kulturgeschichte von Byzanz*, Stuttgart, 1966.

Pocket Oxford German Dictionary: German – English, English – German, Oxford, 2009.

『デイリー日独英・独日英辞典』 三省堂、2004年

西洋史特講（4年前期）

野中恵子・大村次郷『イスタンブール歴史の旅』 小学館、2002年

井上浩一『ビザンツ皇妃列伝』 白水社、2009年（筑摩書房、1996年）

S. Kotzabassi, *Das hagiographische Dossier der heiligen Theodosia von Konstantinopel*, Berlin-New York, 2009.

Nikephoros Patriarch of Constantinople Short History: Text. Translation and Commentary, C. Mango, Washington D. C., 1990.

The Chronicle of Theophanes Confessor: Byzantine and Near Eastern History AD.284-813, tr. C. Mango and G. Greatrex, Oxford, 1997.

Doukas, *Decline and Fall of Byzantium to the Ottoman Turks*, tr. H. J. Magoulias, Detroit, 1975.

さすがに4年生の特講となると外国語文献が並びますね。

学生諸君がレポート・卒論で使った文献—— 一部のみ

江村洋著『ハプスブルク家の女たち』講談社、1993年

C. クレマン著『皇妃エリザベート——ハプスブルクの美神』田辺希久子訳、創元社、1997年

M. シェーファー著『エリザベート——栄光と悲劇』大津留厚監訳・永島とも子訳、刀水書房、2000年

J. デ・カール著『麗しの皇妃エリザベト』三保元訳、中央公論新社、2003年（1990年）

カエサル『ガリア戦記』近山金次訳、岩波書店、1964年（ワイド版、1991年）

カエサル『ガリア戦記』国原吉之助訳、講談社、1994年

カエサル『ガリア戦記』石垣憲一訳、平凡社、2009年

カエサル『新訳 ガリア戦記』中倉玄喜訳、PHP研究所、2008年

『ガリア戦記』は日本語訳がたくさんあります。読み比べてみるとよい。

G. トリュック『世界女性史』森乾・松本亮訳、久保書店、1971年

『世界女性史大事典』『世界女性史年表』も基本文献です。

S. フィッシャー＝ファビアン『ゲルマン民族 二つの魂』アリアドネ企画、1998年

I. ウェーバー＝ケラーマン『ドイツの家族』鳥光美緒子訳、勁草書房、1991年

石川栄作『「ニーベルンゲンの歌」を読む』講談社、2001年

H. I. マルー『キリスト教史2 教父時代』上智大学中世思想研究所編訳・監修、平凡社、1996年（講談社、1980年）

O. クレマン『東方正教会』冷牟田修二・白石治朗訳、白水社、1977年

F. ティンネフェルト『初期ビザンツ社会——構造・矛盾・緊張』弓削達訳、岩波書店、1984年

『古代史講座』全13巻、学生社、1961～66年

そのあと同じ出版社から『中世史講座』全11巻（1982～96年）や『オリエント史講座』全6巻（1982～86年）も刊行された。

長谷川宜之『ローマ帝国とアウグスティヌス——古代末期北アフリカ社会の司教』東北大学出版会、2009年

S. ペイター『フランス騎士道——中世におけるフランス騎士道理念の慣行』氏家哲夫訳、松柏社、
2001年

The Capture of Constantinople: The "Hystoria Constantinopolitana" of Gunther of Pairis, ed.
and tr. A. J. Andrea, Philadelphia, 1997.

K. Mills, *Idolatry and Its Enemies: Colonial Andean Religion and Extirpation, 1640-1750*,
Princeton Univ. Press, 1997.

教授が脱線で紹介した本——気分転換にどうぞ

松谷健二『東ゴート興亡史』中央公論新社、2003年（白水社、1994年）

丹野顯『江戸の色ごと仕置帳』集英社、2003年

この2冊は図書館実習で「ゴート」をOPAC検索してヒットしました。

海老沢泰久『監督』文春文庫、1995年（新潮文庫、1979年）

A. C. ドイル『シャーロック・ホームズの冒険』延原謙訳、新潮文庫、1953年

同『シャーロック・ホームズの帰還』延原謙訳、新潮文庫、1953年

A. C. Doyle, *Sherlock Holmes: The Complete Short Stories*, London, 1928.

シャーロック・ホームズのシリーズは新しい版や訳が何種類も出ていますが、やはりジョン・
マレー版と新潮文庫が懐かしい。

かんべむさし『水素製造法』徳間書店、1981年（1978年）

井上浩一『生き残った帝国ビザンティン』講談社、2008年（1990年）